

こっちが、見とれていると、こっちの方を 向いた。
目をよけようかと迷ったが、よけないで、そのまま見た。

その人の方が目をそらしたので、
はっとしたが、また、すぐ、
こっちを見る、今度は長い。

こっちが目をそらすと、
向こうもそらした。

僕はすぐ、またその人に目を向けた。
今度は、もうこちらを見なくなった。

僕は、その人に見とれながら、
一人、夢想していた。

「三条河原を散歩しませんか」
とその人を誘っている僕を、
二人仲良く、鴨川の河原で
座っている光景を、一人夢想していた。

中書島の駅で 僕は急行を降りた。
その時、その人は僕の方を見ていた。

駅はうす暗く寂しかった。
宇治線に乗換え、観月橋の駅で降り、
真っ暗な道を家迄トボトボ歩いて帰った。

それから、気晴らしに、ずっと英文解釈。
好きな文章があり、その英文を暗唱した。
今日も、京太のスキー行きは おじゃん。
京太、かわいそう。

